

2024 年度（令和 6 年度）

事業報告書

自 2024 年（令和 6 年）4 月 1 日

至 2025 年（令和 7 年）3 月 31 日

公益財団法人 日本ライフセービング協会
JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION
（ J L A ）

目 次

【A. 公益目的事業】

- < 1 > 監視救助事業
- < 2 > 資格認定事業
- < 3 > 安全・防災教育・環境保全事業
- < 4 > 競技推進事業
- < 5 > 国際交流事業
- < 6 > 広報活動事業
- < 7 > その他の事業

【B. その他の事業】

- < 1 > 認定ライフセーバー養成のための資格認定事業

【C. 収益事業】

- < 1 > STCW 条約*に基づく基本訓練講習事業

*STCW 条約・・・The International Convention on Standards of Training,
Certification and Watchkeeping for Seafarers, 1978)

【1978年の船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約】

備考：表記について

- ・国際ライフセービング連盟 → I L S
- ・日本ライフセービング協会 → J L A
- ・L S → ライフセービング
- ・L S C → ライフセービングクラブ

【A. 公益目的事業】

ライフセービングに関する公益目的事業として、海岸・プール等をはじめとする全国の水辺の事故防止に向けた安全教育、監視・救助、防災・防災教育、環境保全等を行うライフセービングの普及・啓発及び発展に関する事業を行う。

< 1 > 監視救助事業

1. 監視救助業務

(1) 監視救助事業とは、海岸や河川、プール等の水辺に海水浴客やスポーツイベント等の来客が訪れた際、その監視と救助を行う事業である。

本協会では静岡県、東京都、和歌山県、神奈川県内の自治体から各海水浴場の監視救助活動業務の依頼を受けて事業を実施した。また、その他の自治体については、都道府県協会又は各加盟クラブがその依頼を受けて事業を実施しており、本協会はそれらについては活動支援を行った。

	海水浴場名	地区	期間
1	新島地区・黒根海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
2	新島地区・第二前浜海水浴場		
3	新島地区・第四前浜海水浴場		
4	新島地区・間々下浦海水浴場		
5	新島地区・若郷前浜海水浴場		
6	新島地区・羽伏浦海水浴場		
7	式根島地区・泊海水浴場		8/1-8/31
8	式根島地区・大浦海水浴場		
9	式根島地区・中の浦海水浴場		
10	式根島地区・石白川海水浴場		
11	三宅島地区・錆が浜海水浴場	東京都三宅村	8/15-8/15
12	三宅島地区・三池浜海水浴場		
13	三宅島地区・伊ヶ谷浜海水浴場		
14	三宅島地区・大久保浜海水浴場		
15	三宅島地区・長太郎池海水浴場		
16	神奈川県協定事業① 海岸巡視業務（エリアマネージャー）	三浦市/横須賀市エリア	7/6-8/31 までの土日祝
		東部エリア（葉山～腰越）	7/16-8/16 までの平日
		中央エリア（東浜～茅ヶ崎）	
		西部エリア（平塚～湯河原）	
17	神奈川県協定事業② 海岸水難事故防止活動業務	三浦市 三浦海岸	7/6-8/31 までの土日祝 7/16-8/16 までの平日

18	神奈川県協定事業③ 神奈川県 L S 協会との共同事業 海岸水難事故防止活動業務	三浦市 大浦海岸	
19	神奈川県協定事業④ 海岸水難事故防止活動業務	三浦市 横堀海岸	
20	熱川温泉 You 湯ビーチ	静岡県東伊豆町	7/13-8/25
21	今井浜海水浴場	静岡県河津町	7/20-8/25
22	土肥海水浴場	静岡県伊豆市	7/13-8/25
23	小土肥海水浴場		
24	大浜海水浴場	静岡県西伊豆町	7/27-8/25
25	乗浜海水浴場		
26	浮島海水浴場		
27	田子瀬浜海水浴場		
28	黄金崎海水浴場		
29	深田海水浴場		
30	松崎海水浴場	静岡県松崎町	7/13-8/18
31	岩地海水浴場		
32	石部海水浴場		
33	雲見海水浴場		
34	白良浜海水浴場	和歌山県白浜町	5/3-9/30

(2) スポーツイベント（*オープンウォータースイミングやトライアスロン、水泳等）の監視とその救助を行う。

*「オープンウォータースイミング」海、川、湖など、自然の水の中で行なわれる長距離の水泳競技であり、国際水泳連盟が定める競技規則のもと国際的に統一されたルールで行われ遠泳とは異なる。「OWS」と略す。

事業内容	開催日	会場
一般社団法人千葉県水泳連盟 日本マスターズ水泳短水路大会 2024	4/20-4/21（2 日間）	千葉国際総合水泳場
アジアトライアスロン選手権 2024 廿日市市実行委員会 ASTC アジアトライアスロン選手権 2024 廿日市大会	4/20-4/21（2 日間）	廿日市市役所周辺特設会場
一般社団法人千葉県トライアスロン連合 第 15 回館山わかしおトライアスロン大会	5/25-5/26（2 日間）	沖ノ島周辺と海上自衛隊 館山航空基地内の特設会場
一般社団法人日本アウトリガーカヌー協会 JOCACUP 第 3 回全日本アウトリガーカヌー選手権	5/26（1 日間）	逗子海岸
公益財団法人日本水泳連盟 OWS オーシャンズカップ館山 2024	6/15-6/16（2 日間）	館山市北条海岸
公益財団法人日本ローイング協会	6/20-6/23（4 日間）	海の森水上競技場

第 102 回全日本ローイング選手権大会		
一般社団法人日本知的障害者水泳連盟 第 27 回日本知的障害者選手権水泳競技大会	6/30 (1 日間)	横浜国際プール
一般社団法人日本マスターズ水泳協会 第 39 回日本マスターズ水泳選手権大会	7/3-7/7 (5 日間)	東京アクアティクスセンター
公益財団法人東京都水泳協会 東京 OWS 大島 2024	7/6-7/7 (2 日間)	大島町 OWS スイムエリア
館山 OWS オーシャンズカップ 2024 実行委員会 館山 OWS オーシャンズカップ 2024	7/13-7/14 (2 日間)	館山市北条海岸
一般社団法人青森県水泳連盟 青森あさむし温泉 OWS 大会 2024	8/31-9/1 (2 日間)	サンセットビーチあさむし OWS 特設会場
SAGA2024 国スポ・全障スポ伊万里市実行委員会 SAGA2024 国スポ・全障スポ OWS 競技大会	9/9-9/11 (3 日間)	イマリンビーチ
一般社団法人日本マスターズ水泳協会 第 2 回日本マスターズ水泳チーム対抗競技大会	9/15-9/16 (2 日間)	日本ガイシアリーナ
アジアトライアスロン・パラトライアスロンカップ 2024 東京・海の森実行委員会 アジアトライアスロン・パラトライアスロンカップ 2024	9/22-9/23 (2 日間)	海の森水上競技場
公益財団法人日本水泳連盟 第 100 回日本選手権水泳競技大会 OWS 競技	9/27-9/29 (3 日間)	館山市北条海岸
一般社団法人泉南スポーツコミッション協会 泉南 OWS 大会 2024	10/5-10/6 (2 日間)	タレイサザンビーチ
SAGA2024 国スポ・全障スポ唐津市実行委員会 SAGA2024 国スポ・全障スポトライアスロン競技会	10/5-10/6 (2 日間)	唐津市波戸岬・名護屋特設会場
一般社団法人日本知的障害者水泳連盟 第 27 回日本知的障害者選手権(25m)水泳競技大会	10/6 (1 日間)	立教学院セントポールズ・アクアティックセンター
公益財団法人日本水泳連盟 第 100 回日本学生選手権 OWS 競技大会	10/12-10/14 (3 日間)	館山市北条海岸
千葉シティトライアスロン大会実行委員会 2024 千葉シティトライアスロン大会	10/18-10/20 (3 日間)	稲毛海浜公園周辺
須崎 OWS2024 大会実行委員会 須崎 OWS 大会 2024	10/19-10/20 (2 日間)	須崎市立スポーツセンターシーパーク大島
一般社団法人千葉県水泳連盟 第 24 回千葉マスターズ水泳選手権大会	10/19-10/20 (2 日間)	千葉国際総合水泳場
公益社団法人日本トライアスロン連合 ワールドトライアスロンカップ 2024	11/8-11/10 (3 日間)	みやぎ臨海公園
一般社団法人日本マスターズ水泳協会 第 11 回日本マスターズ水泳スプリント選手権大会	11/16-11/17 (2 日間)	インフロニア草津アクアティックセンター

公益社団法人日本トライアスロン連合 トライアスロン日本選手権大会	11/17 (1 日間)	東京お台場
一般社団法人日本マスターズ水泳協会 日本マスターズ水泳スプリント 2024 EAST 千葉	11/30-12/1 (2 日間)	千葉国際総合水泳場
一般社団法人日本知的障害者水泳連盟 第 8 回日本知的障害者選手権新春水泳競技大会	1/13 (1 日間)	千葉国際総合水泳場
新春マスターズスイムミート 2025 実行委員会 新春マスターズスイムミート 2025	2/24 (1 日間)	千葉国際総合水泳場

2. 水辺の溺水事故防止に向けた調査研究

ライフセービングレポート（全国パトロール統計：e-log）の集計および、レスキューレポート、傷病者等記録票の検証とフィードバック、水浴場調査を実施した。本協会に加盟するライフセービングクラブが全国において監視救助活動を行った結果を集計し、それを公表することで水辺の溺水事故防止につなげる事業である。

結果は例年本協会の事業報告書で公開し、2024 年度においては報告水浴場計 215 か所、携わったライフセーバー総数は 33,350 人、パトロール延時間は 266,800 時間であった。

	2024 年	2023 年	2022 年	2021 年	2020 年
報告水浴場数	215	215	207	157	107
水浴客総入込数	3,915,428	4,105,659	4,407,175	2,139,325	1,498,088
レスキュー総数	458	416	507	314	291
Preventive Action	450	401	449	308	284
Emergency Care	8	15	19	6	7

	2019 年	2018 年	2017 年	2016 年	2015 年
報告水浴場数	197	200	195	204	197
水浴客総入込数	8,289,594	9,522,415	8,524,042	11,727,383	11,260,363
レスキュー総数	2,128	2,362	1,776	2,276	3,163
Preventive Action	2,113	2,334	1,761	2,239	3,123
Emergency Care	15	28	15	37	40

3. 監視救助活動の推進に向けた器材等配備支援

全国のライフセーバー及びライフセービングクラブに対して、監視救助活動で利活用する器材等の配備を行った。一部有償で支援を行っているが、原価及び管理経費による支出のため利益を伴う事業ではない。

(1) 監視救助用ユニフォーム等の配備支援

- ・対象：本協会認定資格所有者
- ・内容：パトロールユニフォーム、パトロール水着等

監視救助用ユニフォーム	数量
パトロールユニフォーム長袖	268
パトロールユニフォーム半袖	503
ビーチパトロールシャツ半袖	43
プールライフセーバー半袖	20
サーフパンツ男子	505
サーフパンツ女子	181
男子水着ボクサー型 1	0
男子水着ボクサー型 2	115
男子水着ボクサー型 3	96
男子水着ブーメラン型 1	0
男子水着ブーメラン型 2	50
男子水着ブーメラン型 3	48
女子水着トップス型 1	0
女子水着トップス型 2	58
女子水着トップス型 3	67
女子水着ボクサー型 1	1
女子水着ボクサー型 2	21
女子水着ボクサー型 3	24
女子水着ブーメラン型 1	6
女子水着ブーメラン型 2	30
女子水着ブーメラン型 3	51
女子水着ワンピース型 3	15
ラッシュガード	85
サーフハット	0
つば付きキャップ	0
パトロールキャップ	300

(2) 監視救助用器材等の配備支援 ※日本財団助成事業

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：レスキューボード/チューブ/ボード用ラック、IoT 等を活用した監視救助システム

配備品	数量
レスキューボード	45 本
レスキューチューブ	128 本
A E D	10 機
津波フラッグ・エリアフラッグ セット	18 旗
高度化事業＊ IoT 監視救助システム（沖縄県恩納村アボガマビーチ）	1 セット

＊ライフセービングの高度化事業

JLA では先端技術を取り入れたライフセービングの高度化を 2019 年より進めている。

① AI と IoT を活用した海辺のみまもりシステムの開発

2019 年に開発し、2023 年までに全国 6 ヶ所（千葉県御宿町中央海岸、宮崎県宮崎市青島ビーチ、福井県高浜町若狭和田海岸、神奈川県鎌倉市由比ガ浜海岸、神奈川県鎌倉市中央・材木座海岸、静岡県下田市吉佐美大浜海岸）で運用。

このシステムは、AI が離岸流発生と離岸流エリアへの利用者の立ち入りをリアルタイムで自動検知し、離岸流発生時には、利用者のスマートフォンアプリにアラートを通知、また、ライフセーバーのスマートウォッチにも通知、離岸流エリアへの利用者の立ち入りがあった際にはライフセーバーのスマートウォッチに救助要請を発報。

また、津波注意報、警報発令時には、海岸利用者数を自動カウントし管轄行政の登録メールアドレスに海岸画像とともに通知、あらかじめ設定した間隔にて自動更新（通知）される。これにより、有事に海岸にどの程度の避難者がいて、時間経過とともに避難が進んでいるかを確認可能。さらに、ヘルプシグナルの自動検知も試験運用中。

2023 年には離岸流エリアに利用者が立ち入った際にドローンがその地点まで自動飛行し注意喚起のアナウンスをして自動で戻ってくるシステムの試験運用を実施し 2024 年には若狭和田海水浴場にて実装した。

② ウォータセーフティアプリ（WS）アプリの開発

前述のシステムと連動するスマートフォンアプリを 2020 年に開発し、全国のライフセーバーが活動する海水浴場情報とともに公開。

③ e-log の導入

ライフセーバーの活動記録の電子化を行い、2022 年度より本運用。日々のデータが一元管理される。

④ ドローンパトロール

2021 年、2022 年に一部の地域で試験的に運用（神奈川県協定）。2023-2024 年では本運用にむけ、神奈川県内海岸市町を対象に研修会と広域ドローンパトロールを実施した。

(3) 監視救助及び巡視等に対する車両配備支援

- ・対象：都道府県協会
- ・内容：主に海水浴場開設期間に車両「ライフセーバーカー」の貸出し
- ・協賛：株式会社 SUBARU

	2024 年	2023 年	2022 年	2021 年	2020 年
都道府県協会数	30 道府県 JLA 本部	29 道府県 JLA 本部	26 道府県 JLA 本部	21 道府県	3 県
車両台数	36 台	32 台	29 台	21 台	12 台

< 2 > 資格認定事業

以下の資格認定講習会、更新講習会及びライフセービングサポーター講習会は「JLA アカデミー」と称する教育機関が実施した。JLA アカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

1. 資格認定講習会及び更新講習会等の開催

本協会では、誰もが身につけるべき「自分自身を守る、溺れないためのプログラム」「目の前で人が倒れた場合の対処を学ぶプログラム」から、「実際に事故を未然に防ぎ、溺者を助ける救助技術」まで、水辺の事故をゼロにするための資格講習会を開催しており、それぞれのコースについての資格認定をしている。

*当該資格認定事業では、ライフセーバーを養成することを目的としていない。広く人命救助と水辺の事故の減少に資するための資格認定講習会である。

*ライフセーバーの認定についてはウォーターセーフティ及びBLS（CPR+AED）の両コースを取得し、さらに上位の知識、技能を得るための講習の受講が必要であり、不特定多数の者の利益の増進に寄与する事業とは言えず、またライフセーバーの人員確保という相互扶助の面から、その他の事業（相互扶助等事業）として実施する。

以下の資格認定講習会を開催し資格の認定を行う。また、資格取得者に対して更新講習を実施する。以下の2種類の講習を実施する。

(1) BLS*（CPR**+AED）コース

*BLS・・・Basic Life Support（一次救命処置）心肺蘇生とAED、気道異物の除去の3つを合わせてBLSという。

**CPR・・・cardiopulmonary resuscitation（心肺蘇生法）質の高い心肺蘇生とAED等の修得を目指し人命救助及び傷病者の社会復帰を目的に実施。

(2) ウォーターセーフティ (WS*) コース

*WS・・・水辺において自身を守ることのできる知識や技能のこと。水辺における活動やアクアスポーツ等の中で自らの安全を確保し、ライフセービングの基礎となる事故防止に備えることを目的に実施。

(3) 資格更新講習

[認定基準]

- ① 公益財団法人日本ライフセービング協会認定の資格を有すること。
- ② 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

資格名	発行数	開催数
B L S コース	2, 071	197
Water safety コース	1, 329	139

2. ライフセービングサポーター講習会の開催

子どもの保護者や民間スポーツクラブのインストラクター、学校教員等に向けた安全教室として、企業研修や学校の授業として広く一般の要望に合わせた各種安全教育プログラム「ライフセービングサポーター講習会」を実施した。プールでのウォーターセーフティや AED、応急処置などの体験ができる。

※日本財団助成事業

サポーター講習会	開催数	修了証発行数
B L S	73	3, 633
Water Safety	55	5, 606
ライフセービング	3	141
その他 (BLS&WS)	10	1, 250

※株式会社 SUBARU 協賛事業

都道府県協会	日程	会場
日本ライフセービング協会	4/13	東京スバル株式会社 本郷店
	10/6	株式会社SUBARU 群馬製作所
岩手県ライフセービング協会	7/21	岩手スバル自動車株式会社 花巻空港店
山形県ライフセービング協会	10/13	遊佐西浜海水浴場
福島県ライフセービング協会	12/14	福島スバル自動車株式会社
神奈川県ライフセービング協会	4/7	神奈川スバル株式会社 本社
	4/25	神奈川スバル株式会社 湘南店
	9/14	神奈川スバル株式会社 愛川 U-car センター
	11/25	神奈川スバル株式会社 本社

	12/5	神奈川スバル株式会社 本社
	3/13	神奈川スバル株式会社 本社
静岡県ライフセービング協会	7/6	株式会社静岡スバル 浜松有玉店
	7/7	株式会社静岡スバル 浜松入野店
	7/9	浜松市中央区舞阪町 弁天島海浜公園
	7/19	湖西市新居弁天海水浴場 監視タワー内
愛知県ライフセービング協会	10/21	名古屋スバル自動車株式会社 本社
	11/2	名古屋スバル自動車株式会社 半田店
	11/9	岐阜スバル自動車株式会社 各務原店
	11/10	三重スバル自動車株式会社 四日市店
京都府ライフセービング協会	10/15	京都府民総合交流プラザ 京都テルサ
島根県ライフセービング協会	10/13	山陰スバル株式会社 松江支店
岡山県ライフセービング協会	8/18	岡山スバル自動車株式会社 久米店
広島県ライフセービング協会	7/27	広島スバル株式会社 福山店
福岡県ライフセービング協会	7/4	福岡スバル株式会社 本社
	2/17	福岡スバル株式会社 本社
	2/20	福岡スバル株式会社 本社
大分県ライフセービング協会	10/15	ビーコンプラザ（大分県別府市）
宮崎県ライフセービング協会 鹿児島県ライフセービング協会	6/3	南九州スバル株式会社 都城店
沖縄県ライフセービング協会	11/30	沖縄スバル株式会社

3. 資格認定講習会及びライフセービングサポーター講習会等の普及・促進に係る支援事業
 地方開催での資格認定講習会（指導員養成、更新講習会含む）での指導員の実施に関わる旅費を支援した。また、ライフセービングサポーター講習会での実施諸経費を一部補助した。

< 3 > 安全・防災教育・環境保全事業

1. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた教育支援活動

(1) 臨海教育等へのライフセービング指導協力

臨海教育等を通じて安全・防災教育を行った。

主催	日程	会場	参加数
北区教育委員会 岩井臨海学園	7月20日～8月12日	岩井海岸 (千葉県南房総市)	1,334名

国土舘大学	7月8日～7月9日	岩井海岸 (千葉県南房総市)	168名
愛知淑徳大学 健康医療科学部スポーツ・健康医科学科救急救命学専攻	8月26日～8月30日, 9月2日	愛知淑徳大学 長久手キャンパス 屋内温水プール	28名

(2) 小中学校等へのライフセービング指導協力

各小中学校からの協力要請に応じた安全・防災教育及び海洋教育推進に向けた ICT 教育プログラムの開発と実践を行った。学校によって ICT 教育プログラムを活用した室内での学習プログラムのケース、プールでの実技プログラムのケースと状況に合わせて実施した。

主催	日程	会場	参加数
中央区佃島小学校 プール実技プログラム	7月2日	佃島小学校プール (東京都中央区)	386名
深谷市立川本北小学校 プール実技プログラム	7月17日	川本北小学校プール (埼玉県深谷市)	60名
福生市立福生第五小学校 プール実技プログラム	7月18日	福生第五小学校プール (東京都福生市)	102名
横浜国立大学教育学部附属横浜 中学校 プール実技プログラム	6月25日	横浜中学校プール (神奈川県横浜市)	245名
中央区坂本小学校 プール実技プログラム	6月20日	坂本小学校プール (東京都中央区)	15名
狛江市教育委員会 プール実技プログラム	7月17日	狛江市立第六小学校プール (東京都狛江市)	95名
狛江市教育委員会 プール実技プログラム	7月16日	狛江市立第一小学校プール (東京都狛江市)	150名
狛江市教育委員会 プール実技プログラム	7月8日 7月9日	狛江市立緑野小学校プール (東京都狛江市)	380名
カヌースラロームセンター プール実技プログラム	7月21日	カヌースラロームセンター (東京都江戸川区)	180名
諫早中学校 プール実技プログラム	7月8日	諫早中学校プール (長崎県諫早市)	290名
西大村小学校 プール実技プログラム	7月9日	西大村小学校プール (長崎県大村市)	245名
島中学校 プール実技プログラム	7月12日	岐阜市立島中学校 (岐阜県岐阜市)	610名

(3) 海洋教育支援推進に向けた ICT 教育用プログラム開発 ※日本財団助成事業

<開発目的>

海洋教育を広く推進していくために、水辺の安全教育は必須と考える。水泳を含めた水辺教育のファンデーションプログラムとなる「安全に関する知識と技能習得」のための ICT 教育の開発を目的とした。小学校、中学校学習指導要領改訂に伴う「水泳」における「安全確保につながる運動」「水泳の事故防止に関する心得」等を反映したウォーターセーフティプログラムの構築を行った。

<実施内容>

- ① 「e-Lifesaving」コンテンツ改修と拡充
 - ・「みんなで考えよう～釣り中の事故多発」追加制作

(4) 学校教員への研修協力

教員を対象とした一次救命処置や水辺の事故防止等について研修会を行った。

主催	日程	会場	参加数
足立区教育委員会 水泳事故防止研修会	5 月 31 日	千住温水プール (東京都足立区)	70 名
栗東市社会福祉協議会 講義	7 月 11 日	なごやかセンター (滋賀県栗東市)	70 名
大智学園高等学校	5 月 22 日	大智学園高等学校 (東京都新宿区)	30 名

2. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた調査研究

(1) 防災力強化事業

防災教育の推進及び公的救助機関（海上保安庁、気象庁、警察、消防）との連携について検証/調査、地震発生後の津波に対する備えや対策について調査研究した。

連携機関	連携内容	2024 年度の成果
気象庁	2020 年 12 月 24 日に気象庁と日本ライフセービング協会が「水難事故防止・防災に関する協定」を締結したことにより共催事業を開始した	津波フラッグを活用した避難訓練を下記のとおり実施
		7 月 13 日 横浜市主催 参加者約 100 名 横浜海の公園にて津波避難訓練実施 地域のライフセービングクラブと共に津波フラッグを活用し、指定された高台避難所まで参加者を誘導
		7 月 19 日～8 月 13 日 東京都北区岩井臨海学園 参加者 中学 1 年生 1334 名 臨海学園のプログラム中に津波フラッグを掲揚し避難訓練を実施

		11月16日 藤沢市主催 参加者 3,394 名 辻堂海岸から片瀬西浜まで広範囲で津波避難訓練実施 JLA はドローン積載スピーカーを活用し避難誘導
■気象庁ホームページ ●津波フラッグ解説ページ http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html ●気象庁/知識・解説 YouTube チャンネル「津波フラッグ」をおぼえよう！！ https://www.youtube.com/watch?v=fMMEvxnFphM ●マンガ小冊子「津波フラッグ」をおぼえよう！！」を気象庁と共同制作		

<津波フラッグ>

2020 年の気象庁委員会にて津波フラッグが設定された。2021 年、2022 年とコロナの影響を受けたが各地の海水浴場では津波フラッグが配備されている。全国的に統一されていなかった津波避難時の旗が統一されたことでリスク管理が進んだ。なお、フラッグ決定には様々な意見があったが、聴覚障害者の意見や視覚障害にも配慮して、赤と白の格子模様である「U旗」が採択された。

3. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた教室・研修会の開催

(1) ジュニア・ライフセービング教室の開催

全国の子どもを対象にジュニア・ライフセービング教室を開催し、「自分の命は自分で守る」等の安全・防災教育を実施した。

※日本財団助成事業

実施団体	参加数
愛媛 LSC	13 名
屋久島 LSC	32 名
滑川 LSC	21 名
八重津浜 LSC	32 名
鴨川 LSC	48 名
京都府 LSC	22 名
小樽 LSC	31 名
大分市 LSC	42 名
葉山 LSC	48 名
牧之原 LSC	50 名

(2) ジュニア・ライフセービング教室の開催に関する資器材等の配備支援 ※日本財団助成事業

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：ニッパード、ジュニア教本、ジュニアキャップ等

関連資器材	数量
ライフジャケット	150
ジュニア用ラッシュガード	150
ジュニア用キャップ	150
ニッパード	20
ジュニア教室用ポップアップバナー	10
ジュニアテキスト	4,000
水辺の安全啓発クリアファイル	20,000
ジュニア用ウェットスーツ	150
ビーチかるた	10

(3) 青少年に対する研修会

ライフセービングを担う人材を育成するために大学生を対象とした研修会を実施した。

日程	会場	内容	参加数
2月1～2日	オリンピックセンター (東京都渋谷区)	学生リーダーズキャンプ	27 大学 44 名

(4) ライフセーバーに対する研修会

「水辺の事故ゼロ」を目指し、より質の高い監視救助活動を行うことを目的に、溺水事故防止に関する事項、溺水事故の事例検証について情報共有する研修会やライフセーバー自身のスキルアップを目的とした研修会等を実施した。

■シミュレーション審査会 ※日本財団助成事業

日程	会場	参加数
10月27日	保田海岸（千葉県鋸南町）	・6 チーム 36 名 ・スタッフ・見学 77 名
11月3日	海の公園（神奈川県横浜市）	・7 チーム 42 名 ・スタッフ・見学 127 名
11月17日	重富海岸（鹿児島県姶良市）	・6 チーム 36 名 ・スタッフ・見学 52 名
11月24日	相良サンビーチ（静岡県牧之原市）	・10 チーム 60 名 ・スタッフ・見学 85 名
11月30日	須磨海水浴場（兵庫県神戸市）	・4 チーム 24 名 ・スタッフ・見学 55 名

■スキルアップ研修会

日程	内容	会場	参加数
10月12日	レスキューミーティング	神奈川県藤沢市	118名
11月16日	サーフトレーニングクリニック	鹿児島県始良市	25名
3月2日	事例検討会	東京都港区	57名

(5) インフレーターレスキューボート（IRB*）に関する消防向け教育カリキュラムの開発と IRB レスキュー技術に関する研修会等の開催 *Inflatable Rescue Boat・・・救助用ボートの意

浮遊物が多い洪水や津波・高潮などの水災害において、より多くの要救助者を運搬する機材として優位である IRB に関し、全国の消防を対象にした教育カリキュラムの開発と IRB レスキュー技術に関する研修会等を開催し、ライフセーバーと全国消防が連携することで、より多くの救助が可能な体制の構築を図った。

■IRB を用いた救助技術講習会 ※日本財団助成事業

日程	参加地域消防	参加数
6月4日	岐阜県高山市消防本部	9名
10月3日	宮崎県延岡市消防本部	8名
10月15日-16日	千葉県匝瑳市横芝光町消防組合	18名
10月23日	岡山県瀬戸内市消防本部	10名
10月29日	岡山県真庭市消防本部	9名
11月7日	鹿児島県南大隅町役場・消防団	14名
12月11日-12日	千葉県夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部	11名
1月21日	神奈川県横須賀市消防局	5名
2月19日-20日	茨城県常陸大宮市消防本部	12名

(6) 「令和の日本型学校体育構築支援事業」 ※スポーツ庁委託事業

学校教育における水難事故防止対策の強化を目指し、全国の監視救助活動の現場から得た救助救命の実績と多くの児童生徒に対して実践してきたウォーターセーフティプログラムをもとに、自己保全のための学習内容や指導方法の工夫、さらには有効な教育連携についての実践研究を実施した。

【テーマ】

水難事故防止教育の指導連携と授業内容の充実を目指して～水泳学習の外部委託への流れを踏まえ～

【目的】

事前学習として e-lifesaving を活用し「水泳運動の心得」を習得し、水難事故防止の実技としてライフジャケットの活用を展開する。より実践的な安全の知識と対処行動を体験することで、水難事故の未然防止の心構えや具体的な“そなえ”などの行動変容に働きかけることをねらいとする。

日程	学校	対象	参加者
7月8日	狛江市立緑野小学校	小学3年生	101
7月9日	狛江市立緑野小学校	小学4,5,6年生	291
7月16日	狛江市立狛江第一小学校プール	小学5年生	150
7月17日	狛江市立狛江第六小学校	小学5年生	96

(7) 誰でも海を楽しめる環境の創出

「誰もが海で遊べるための海辺のノーマライゼーションに関する手引き」(2024年3月完成)をホームページで公開し、障がい者を対象とするサポートカリキュラムの実施をしている加盟ライフセービングクラブ(LSC)の継続実施を支援するとともに、実績のない加盟ライフセービングクラブが実施する際の手引きとした。また、ライフセービングクラブの希望に応じて、器材(水陸両用車いす、ニッパーボード、ライフジャケット)の貸出しを行った。

4. 環境保全活動

全国の水辺の清掃及び水辺を利用する一般市民に対して環境保全についての教育を実施した。

■ビーチクリーン活動

主な日程	会場	主な内容
7月1日～8月31日	各地の海水浴場等(約200か所)	ビーチクリーン活動

< 4 > 競技推進事業

(事業実施の背景)

ライフセービング競技の目的は人命救助の向上にある。実際の現場での救助の際には瞬時に必要とされる行動をとれる技術の錬磨と基礎体力が必要であり、それには日頃の救助技術等の練習・訓練・体力づくりがその基礎となる。技術の向上、持久力や基礎体力の向上には他者との競い合いが最も近道であり、結果そこで仲間との連帯感の向上、技術の再確認等がなされる。そのことが人命救助へとつながる。競技種目はビーチ種目、スイム種目、ボード&サーフスキー種目、オーシャンマンレース等があり、その対象もジュニア(小学生)、ユース(中学生/高校生)、学生、社会人など幅広い。

1. 主催競技会の開催

年間を通じてプールや海岸等で競技大会を実施した。

開催日	大会名	参加数	会場
4月13日～14日	第2回全日本IRB競技選手権	7チーム56名	舘山寺サンビーチ（静岡県）
6月8日～9日	第37回全日本種目別選手権	59チーム602名	白浜大浜海岸（静岡県）
6月22日	第4回全日本学生SERC選手権	20チーム108名	静岡県立水泳場（静岡県）
6月23日	第4回全日本SERC選手権	17チーム102名	静岡県立水泳場（静岡県）
9月7日～8日	全日本ジュニア/マスターズ（サーフ）	24チーム321名	岩井海岸（千葉県）
9月28日～29日	第39回全日本学生選手権	43チーム755名	御宿中央海岸（千葉県）
10月5日～6日	第16回全日本ユース選手権	18チーム207名	御宿中央海岸（千葉県）
10月12日～14日	第50回全日本選手権	62チーム663名	片瀬西浜海岸（神奈川県）
10月26日～27日	第24回オーションサーフチャレンジ in 白浜	13チーム109名	白良浜海水浴場（和歌山県）
1月25日～26日	全日本ジュニア/ユース/マスターズ（プール）	27チーム374名	静岡県富士水泳場（静岡県）
2月15日～16日	第16回全日本学生プール競技選手権	43チーム529名	日環アリーナ栃木（栃木県）
3月8日～9日	第37回全日本プール競技選手権	38チーム457名	東京アクアティクスセンター（東京都）

2. 選手強化等事業 ※協賛：（株）三洋物産/（株）三洋販売

ライフセービング競技における競技者の競技力強化・育成事業を実施した。

（1）強化合宿・研修合宿等事業

日程	対象	会場	内容
4月6-7日	HPT-A, B, C	栃木温水プール館（栃木） 片瀬東浜海岸（神奈川県） 材木座海岸（神奈川県）	強化合宿
4月27日-5月6日	HPT-A, B, C	オーストラリア・ゴールドコースト	在豪日本人選手の強化
5月18-19日	HPT-A, B, C	日環アリーナ栃木（栃木県）	プール競技選考会
6月23日	LWC2024 日本代表	静岡県立水泳場（静岡県）	強化合宿
6月29-30日	LWC2024 日本代表	国際武道大学（千葉） 御宿海岸（千葉） 屋形海岸（千葉）	強化合宿
8月3-4日	LWC2024 日本代表	岩井海岸（千葉） 館山市営プール（千葉）	強化合宿
8月17-18日	LWC2024 日本代表	国際武道大学（千葉） 御宿海岸（千葉）	強化合宿
8月26-27日	LWC2024 日本代表（IRB）	屋形海岸（千葉）	強化合宿
10月26-27日	GERMAN CUP2024 日本代表	国際武道大学（千葉）	強化合宿
11月4日	GERMAN CUP2024 日本代表	AQiT（イトマン東京強化校）	強化合宿
11月9-10日	GERMAN CUP2024 日本代表	AQiT（イトマン東京強化校）	強化合宿
1月12日	TWG2025 日本代表	AQiT（イトマン東京強化校）	強化合宿

1 月 19 日	TWG2025 日本代表	AQiT（イトマン東京強化校）	強化合宿
1 月 24-25 日	TWG2025 日本代表	静岡県富士水泳場（静岡）	TWG2025 出場権獲得のためのタイムトライアル

(2) 国際競技会等への代表選手選考及び派遣事業

大会名	大会期間	会場	総合順位
LIFESAVING WORLD CHAMPIONSHIPS 2024	8 月 28 日-9 月 4 日	オーストラリア ゴールドコースト	オープン：6 位/30 か国 ユース：8 位/30 か国 IRB：4 位/6 か国
2024 INTERNATIONAL GERMAN CUP	11 月 22-23 日	ドイツ ヴァーレンドルフ	—

3. スポーツ教室等開催事業

小・中・高校生、学生及び一般を対象にライフセービングスポーツの楽しさと基礎的な技術の習得を通じて地域のライフセービングスポーツの普及・振興を図った。

日程	対象	会場	内容
6 月 15 日	小学生 中学生	材木座海岸（神奈川）	オーシャン競技の普及向上
6 月 16 日	高校生以上	材木座海岸（神奈川）	オーシャン競技の普及向上
6 月 22 日	高校生以上	静岡県立水泳場（静岡県）	SERC の普及向上
9 月 17 日	西新小学校 5 年生 184 名	シーサイドももち海浜公園（福岡）	学校交流プログラム
11 月 30 日	朝日スポーツクラブ 会員（小学生）	朝日スポーツクラブ BIG-S 網島店 （神奈川）	プール競技の体験普及

4. ドーピング防止活動推進事業

国内外のドーピング防止活動の動向を踏まえ、日本アンチ・ドーピング機構に加盟・連携し、ドーピング防止教育・啓発活動を実施した。

日程	内容	参加対象	参加数
4 月 13 日	アンチ・ドーピング講義	育成選手・保護者	17 名
5 月 25-26 日	アウトリーチプログラム	第 26 回神奈川県ライフセービング選手権大会 育成選手・サポートスタッフ・保護者	94 名
5 月 21 日	アンチ・ドーピング講座 （オンライン）	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	16 名
6 月 1 日	アンチ・ドーピング講座	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	14 名

	(オンライン)		
6月29-30日	アンチ・ドーピング個人面談	LWC2024 日本代表 (全体)	30 名
7月1日	アンチ・ドーピング研修 (オンライン)	LWC2024 日本代表 (オープン・IRB) サポートスタッフ	32 名
7月10日	アンチ・ドーピング研修 (オンライン)	LWC2024 日本代表 (ユース) サポートスタッフ	18 名
8月14日	アンチ・ドーピング研修 (オンライン)	LWC2024 日本代表 (ユース) の保護者 サポートスタッフ	21 名
8月31日	アンチ・ドーピング講座 (オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	2 名
9月11日	アンチ・ドーピング講座 (オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	2 名
9月16日	アンチ・ドーピング講座 (オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	1 名
9月24日	アンチ・ドーピング講座 (オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	4 名
10月12-14日	アウトリーチプログラム	第50回全日本ライフセービング選手権大会 競技会参加アスリート・サポートスタッフ・ 保護者	127 名
10月27日	アンチ・ドーピング個人面談	GERMAN CUP2024 日本代表	10 名
11月9日	アンチ・ドーピング研修	GERMAN CUP2024 日本代表 サポートスタッフ	12 名
1月25-26日	アウトリーチプログラム	全日本 JYM プール選手権大会 2024 育成選手・サポートスタッフ・保護者	201 名
2月1日	アンチ・ドーピング講座 ベーシックレベル (オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	5 名
2月7日	アンチ・ドーピング講座 ベーシックレベル (オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	4 名
2月19日	アンチ・ドーピング講座 アドバンスレベル (オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	5 名
3月1日	アンチ・ドーピング講座 アドバンスレベル (オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	2 名
3月8-9日	ドーピング検査	第37回全日本プール競技選手権大会 全日本参加アスリート・サポートスタッフ	実施人数 非公開

< 5 > 国際交流事業

(事業実施の背景)

本協会は国内唯一の国際ライフセービング連盟（ILS）への加盟団体として、その責務を果たす役割があり、これまでも様々な国際事業に積極的に取り組んできた。今後も水辺の事故ゼロに向け国際貢献するべくより一層の国際交流を深め、世界情勢を把握したうえで国際的な活動を推進していく。ILS 主催の総会や理事会、各種専門委員会や事業に本協会役員や委員を参加させネットワークの構築や情報収集を実施し、ILS の戦略プランの遂行に貢献する。

【2024 年度トピック】

・ ILS 理事会/委員会

世界選手権に合わせて対面で、理事会が開かれた。会議の合間には様々な団体や組織との打ち合わせがあり、各国から今後の JLA の国際的な場面での貢献に期待を感じられた。ILS 委員会には JLA から多くのメンバーが所属し各分野で貢献した。

・ 世界溺水防止デー

国連決議で毎年 7 月 25 日が「World Drowning Prevention Day 世界溺水防止デー」と宣言された。日本国内の情報発信源となるべく専用ページを設置しキャンペーンを行った。

- 世界女性デーを記念して、溺水防止の分野で活躍する女性にフォーカスしたセミナーに登壇。オンラインで実施。アーカイブは下記から見られる。

https://www.youtube.com/watch?v=9Yqrm_XxZN4&t=3304s

・SLSA と JLA の戦略的パートナーシップの再確認をとりまとめ。2024 年 10 月、SLSA-John Baker AM ESM と JLA 理事長入谷拓哉が調印。

・SLSA とオーストラリア大使館に訪問。将来の取り組みについて再確認。

国際ライフセービング連盟（ILS）役員及び専門委員会等

(1) 中川容子；ILS 理事、ILS アジア太平洋地区理事、Drowning Prevention Commission

- ・ ILS、各国組織、団体及び WHO との連絡調整
- ・ 世界溺水防止デーについて国内で啓発
- ・ 国際会議出席など
- ・ 溺水防止シンポジウムに向けての WHO 本部との連絡調整

(2) 石川仁憲；Rescue Commission

- ・ LS Position statements の改訂・新規作成、WCDP 関連、対外連携等

(3) 木村智美；Multi-Sport Games Committee

- ・ オリンピック競技会への競技登録を働きかける取り組み、各大陸における重要な競技大会の調査・スケジュールまとめ、選考種目、関係者への働きかけ等

(4) 栗栖清浩；Lifesaving Sport Regulations Committee

- ・ ILS 競技規則改定審議及び競技規則の公開、LWC ハンドブック準備、今後の競技種目検討等

(5) 青木将展；Future of Lifesaving Sport Committee

- ・ 世界大会・ワールドゲームズ等の競技会形式等の調査・研究、革新的なイベント検討

- (6) 泉田昌美 ; Lifesaving Sport for All Committee
- ジェンダーや障害を持つ人たちの競技/活動に関する協議
 - ニュージーランドやオーストラリアの障害を持つ子供たちの競技会への参画
- (7) 出木谷啓太 ; Athletes Commission
- 競技者の視点におけるライフセービングスポーツの繁栄・発展のための活動
- (8) 錦織功延 ; Therapeutic Use Exemptions Committee
- ILS 主催大会への TUE 申請の承認の可否の協議
 - WADA が発行する TUE についての最新の知識共有

< 6 > 広報活動事業

1. SNS 利活用による情報発信

公式ホームページ等、SNS を通じて本協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体	ページビュー	ユーザー数
公式 JLA サイト	276, 121 (前年比 102%)	166, 858 (前年比 105%)
公式 LIFESAVING サイト	599, 255 (前年比 86%)	127, 054 (前年比 87%)

媒体	フォロワー数
公式フェイスブック	6, 472 (前年比 103%)
インスタグラム	4, 379 (前年比 114%)

2. 広報資料の作成

プレスリリース等の広報資料を通じて当協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体名	件数
プレスリリース	26

3. メディア取材対応

媒体名	件数
新聞	14
テレビ・ラジオ	30
雑誌・その他	12
Web サイト	11

4. アニュアルレポートの発行

「2023 年度事業報告」を編集して冊子発行した。

< 7 > その他の事業

1. 関係諸団体との連携推進

本協会の理念や活動目的に賛同・協力する地方ブロック協会、都道府県協会や加盟クラブ、関連諸団体と積極的に連携し、外部団体や広く国民に対してライフセービングの普及・促進を図る。また、関係する官公庁や教育諸機関及びスポーツ諸団体等との積極的な連携を促進した。

会議名等	日程	内容	会場
都道府県協会 意見交換会	9 月 16 日	・ 監視救助事業の実態調査 ・ 日本水難救済会との連携	オンライン開催
都道府県協会 代表者会議	3 月 1 日	・ 本部報告及び意見交換	ハイブリッド開催 ・ TKP 浜松町（東京都港区）

連携/加盟/関連団体	内容等
日本サーフィン連盟	(継続) JLA 理事長が理事に選任(2023) (継続) パートナシップ協定の締結(2018-6/7) (継続) WSUPPC 世界大会への選手派遣
日本水泳連盟	(継続) パートナシップ協定の締結(2024-3/19) (継続) OWS 事業協力の締結(2016-2/26) (継続) 日本水泳連盟主催 OWS 競技会及び国民体育大会等の安全担当員 及びライフセーバー派遣
日本水難救済会	(継続) 水難事故救助・防止に関する協定の締結(2023-4/24)
日本ローイング協会	(継続) パートナシップ協定の締結(2023-7/19)
NPO 神奈川県ライフセービング協会	(継続) 包括協定の締結(2023-4/1)

日本スポーツ協会	(継続)承認団体として加盟(2023)
日本スポーツ政策推進機構	(継続)一般会員として団体加盟(2023)
UMI 協議会	(継続)活動会員として団体加盟(2023)
日本水路協会	(継続)「沿岸海域の総合管理のための地形データの整備プロジェクト」委員派遣(2023)
気象庁	(継続)水難事故防止・防災に関する協定(2020-12/24) (継続)津波旗講演会/講師派遣 (継続)津波旗啓発ポスター、リーフレット、デモ映像普及協力
海上保安庁	(継続)事故防止対策等に関する協定(2017-3/15) (継続)「海の安全推進本部・海の安全推進アドバイザー」委員委嘱 (継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」制作協力
消費者庁	(継続)「消費者安全調査委員会専門委員」委嘱
スポーツ庁	(継続)委託事業「令和の日本型学校体育構築支援事業」 (継続)「水泳等の事故防止について(通知)」 (継続)「スポーツ施設等安全管理講習会指導員派遣協力(通知)」 (継続)ICT 教育コンテンツ「e-Lifesaving」情報提供
日本トライアスロン連合	(継続)パートナーシップ協定の締結(2016-3/16) (継続)日本トライアスロン連合主催競技会及び国民体育大会等への安全担当員及びライフセーバー派遣
日本マスターズ水泳協会	(継続)パートナーシップ協定の締結(2018-7/27) (継続)日本マスターズ水泳協会主催競技会へのライフセーバー派遣
日本ワールドゲームズ協会	(継続)正会員として団体加盟 (継続)JLA 事務局長が監事として選任
日本救護救急学会	(継続)JLA メディカルダイレクター他役員が理事として選任
民間救命士統括体制認定機構	(継続)JLA 理事長が理事、そのほか専門委員が統括医師研修認定委員会委員、救急救命士研修認定委員会委員として選任
吉川慎之介記念基金	(継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」普及協力
河川財団	(継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」制作協力
御宿町(千葉県)	(継続)相互協力協定の締結(2015-12/15) (継続)IoT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施(2019 年運用開始)
宮崎市(宮崎県)	(継続)IoT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施(2020 年運用開始)
高浜町(福井県)	(継続)IoT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施(2021 年運用開始)

鎌倉市（神奈川県）	（継続）IoT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施（2022 年運用開始）
下田市（静岡県）	（継続）IoT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の導入（2023 年運用開始）
神奈川県	（継続）海岸における水難事故防止等に向けた取り組みの推進と安全安心な海岸づくりの実現を図る連携と協力に関する包括協定締結（2020-6/19）
牧之原市（静岡県）	（継続）「ライフセービングスポーツの発展と人材の育成・強化に関する包括協定」締結（2022-5/9）
国際武道大学（千葉県）	（継続）「ライフセービングスポーツの発展と人材の育成・強化に関する包括協定」締結（2021-4/1）
学校法人国士舘（東京都）	（継続）「ドローンを活用した防災・救急救助の発展とそれに係る人材の育成・交流に関する包括協定」締結（2022-7/1）
<u>高知市児童プール事故検証委員会</u>	<u>（新規）JLA 担当理事を委員として派遣（2024）</u>
<u>東京都商品等安全対策協議会</u>	<u>（新規）JLA 担当理事を委員として派遣（2024）</u>

※下線部は新規

2. 暴力・ハラスメント等の防止に向けた研修会

JLA 理事、監事、専門委員、指導員、事務局員を対象に、暴力・ハラスメント等について正しく理解するとともに、研修会を通じて一人ひとりの意識や価値観、温度差の違いに気づくこと、暴力・ハラスメント等の発生や潜在化を防止することを目的に以下の日程でオンライン研修会を開催した。公益財団法人日本スポーツ協会インテグリティ推進部に講師派遣を依頼した。

1 回目	令和 6 年 11 月 09 日（土）	／16：00～17：30	参加	40 名
2 回目	令和 6 年 11 月 18 日（月）	／19：00～20：30	参加	109 名
3 回目	令和 6 年 11 月 27 日（水）	／19：00～20：30	参加	53 名
				合計 202 名

また、後日、対象者を限定して、オンライン研修会の模様の録画動画を視聴できるように限定公開を実施した。

3. 「ダメ、ゼッタイ。」普及運動

全世界的に広がりを見せている薬物乱用問題に取り組むために、厚生労働省医薬局が主催として取り組む「ダメ、ゼッタイ。」普及運動に JLA が後援団体として参加し、ポスターやリーフレットに後援団体として JLA の名義が掲載され、都道府県ライフセービング協会、加盟ライフセービングクラブを通じて学生ライフセーバーへ薬物乱用防止を啓発した。

4. 認定海水浴場認証事業 ※日本財団助成事業

国際ライフセービング連盟のリスク評価指標及び本協会独自の指標に基づき海水浴場の安全性を総合的に評価し認証する「認定海水浴場認証事業」を行った。合計で 43 か所となっている。

	実施場所
新規認証 5 か所	1. 熱川 You 湯ビーチ（静岡県東伊豆町） 2. 今井浜海水浴場（静岡県河津市） 3. 石狩浜海水浴場（北海道石狩市） 4. 磯ノ浦海水浴場（和歌山県和歌山市） 5. 片男波海水浴場（和歌山県和歌山市）
更新認証 12 か所 ※更新 3 年	1. 白浜中央海水浴場（静岡県下田市） 2. 白浜大浜海水浴場（静岡県下田市） 3. 外浦海水浴場（静岡県下田市） 4. 多々戸浜海水浴場（静岡県下田市） 5. 入田浜海水浴場（静岡県下田市） 6. 吉佐美大浜海水浴場（静岡県下田市） 7. 北条海水浴場（千葉県館山市） 8. 本須賀海水浴場（千葉県山武市） 9. 逗子海水浴場（神奈川県逗子市） 10. 若狭和田海水浴場（福井県高浜町） 11. 須磨海水浴場（兵庫県神戸市） 12. 田ノ浦海水浴場（大分県大分市）
リスク評価 1 か所 (ブルーフラッグ)	1. 吉里吉里海水浴場（岩手県大槌町）

5. 海のそなえプロジェクト ※日本財団助成事業

4 団体のコンソーシアムにてプロジェクトに取り組んだ。本協会では「全国における水難事故の実態調査分析及びナショナルデータ構築」と「ウォーターセーフティ・ナショナルカリキュラムの開発」に取り組んだ。

< 4 団体 >

- ・公益財団法人日本財団
- ・一般財団法人うみらい環境財団
- ・公益社団法人日本水難救済会
- ・公益財団法人日本ライフセービング協会

< プロジェクト >

- ・水難事故に関する調査
- ・水難事故防止教育プログラムの開発
- ・フローティングアイテム普及推進
- ・海のそなえ普及コンテンツ開発
- ・情報発信（シンポジウム等の開催）

* * * * *

【B. その他の事業】

（事業実施の背景）

人命救助、水辺の事故の減少・防止のためにはライフセービングの普及と同じく実際に人命救助を行うライフセーバーの存在が不可欠であるが、日本国内ではその数がまだまだ不足している。このような現状では、水辺の事故を防止することも、人命を救助することも困難となる。そこで、当事業では主に海岸、プール等で活動する認定ライフセーバーを養成する講習を開催し、正しい知識と技術をもったライフセーバーとしてその資格を認定する。認定された者は「認定ライフセーバー」等の名称を使用し、活動することができる。

（事業の目的）

全国の水辺の事故防止、事故の減少、人命救助、水辺の安全利用の促進を図るため、認定ライフセーバー等の養成を行う。

（事業の内容）

以下のコース別の資格認定講習会、研修会は「JLAアカデミー」と称する教育機関が実施する。JLAアカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

< 1 > 認定ライフセーバー養成のための資格認定事業

1. 認定ライフセーバー資格認定

資格認定は大きく以下のコースに分類されている。

- (1) サーフライフセービングコース
 - (2) プールライフガーディングコース
 - (3) IRB コース *Inflatable Rescue Boat・・・救助用ボートの意
 - (4) ジュニアエデュケーションコース
 - (5) PWRC コース *Personal Water Rescue Craft・・・救助用水上バイクの意
- さらに最上位資格として下記の資格がある。
- (6) アシスタントインストラクター・インストラクター(指導員)

すべての事業に共通して、

- ① ウォーターセーフティ及びBLS（CPR+AED）コースの受講が完了し、両者の資格を保有していなければその上位資格である上記各コースの資格を取得することはできない。以下、ウォーターセーフティ及びBLSの資格を「基礎資格」とする。
- ② 15歳以上でなければ資格を取得できない。

(1) サーフライフセービングコース

基礎資格を有した上で、取得できる資格は、ベーシックサーライフセーバー及びアドバンスサー

フライフセーバー資格である。

(2) プールライフガーディングコース

基礎資格を有した上で、取得できる資格は、プールライフガード及びアドバンスプールライフガード資格である。

(3) IRB コース

基礎資格及びベーシックサーフライフセーバーの資格を有した上で、取得できる資格は、IRB クルー及びIRB ドライバー資格である。

(4) ジュニアエデュケーションコース

基礎資格及びベーシックサーフライフセーバー又はプールライフガードの資格を有した上で、取得できる資格は、リーダー資格である。

(5) PWRC コース

基礎資格及びベーシックサーフライフセーバーもしくはアドバンスサーフライフセーバー資格を有した上で、取得できる資格はPWRC クルー資格及びPWRC オペレーター資格である。

(6) アシスタントインストラクター及びインストラクター資格（指導員資格について）

最上位資格として以下の各指導員資格を取得できる。

- ・BLS アシスタントインストラクター
- ・BLS インストラクター
- ・ウォーターセーフティアシスタントインストラクター
- ・ウォーターセーフティインストラクター
- ・サーフライフセービングアシスタントインストラクター
- ・サーフライフセービングインストラクター
- ・プールライフガーディングアシスタントインストラクター
- ・プールライフガーディングインストラクター
- ・IRB アシスタントインストラクター
- ・IRB インストラクター
- ・ジュニアライフセービングアシスタントインストラクター
- ・ジュニアライフセービングインストラクター
- ・PWRC アシスタントインストラクター
- ・PWRC インストラクター

これらの資格は共通して各コースの下位資格を取得した上で実務経験等の条件を満たした者が取得できるものである。

■認定ライフセーバー資格認定

資格名	発行数	開催数
ベーシックサーフライフセーバー	778	79
アドバンスサーフライフセーバー	178	26
IRB クルー	59	12
IRB ドライバー	44	11
リーダー	79	10
プールライフガード	114	24
アドバンスプールライフガード	10	3
PWRC クルー	37	4
PWRC オペレーター	11	3
資格更新	588	117
資格復活	66	41
指導員（新規）	88	16
指導員（継続）	0	0
合計	2052	346

■BLS 指導員養成講習会（以下含め計 477 名）

日程	会場	合格者
11 月 23、24、12 月 7、8 日	東京医薬看護専門学校（東京都江戸川区）	5
1 月 10、11、12、13 日	北谷町メディアステーション（沖縄県中頭郡）	5
1 月 18、19、25、26 日	清水マリンビル（静岡県静岡市）	11
1 月 25、26、2 月 1、2 日	そびあしんぐう（福岡県糟屋郡）	4
2 月 8、9、22、23 日	大阪ハイテクノロジー専門学校（大阪府大阪市）	4
合計		29

■ウォーターセーフティ指導員養成講習会（以下含め計 368 名）

日程	会場	合格者
4 月 27、28 日	流通経済大学（茨城県龍ケ崎市）	4
12 月 14、15 日	都立駒場高等学校（東京都目黒区）	6
1 月 25、26 日	タピックタラソセンター宜野座（沖縄県国頭郡）	7
2 月 10、11 日	静岡県富士水泳場（静岡県富士市）	10
3 月 15、16 日	SAGA アクア（佐賀県佐賀市）	2
3 月 29、30 日	スポーツクラブビッグラン（広島県福山市）	3
合計		32

■サーフライフセービング指導員養成講習会（以下含め計 259 名）

日程	会場	合格者
5 月 12、18、19 日	三浦海岸（神奈川県三浦市）	11
11 月 10、16、17 日	三浦市大浦海岸（神奈川県三浦市）	4
2 月 8、9、10 日	北谷公園サンセットビーチ（沖縄県中頭郡）	7
合計		22

■プールライフガーディング指導員養成講習会（以下含め計 102 名）

日程	会場	合格者
未実施		
合計		

■IRB 指導員養成講習会（以下含め計 54 名）

日程	会場	合格者
3 月 29、30 日	大竹海岸（茨城県鉾田市）	5
合計		5

■ジュニア・ライフセービング指導員養成講習会（以下含め計 55 名）

日程	会場	合格者
3 月 22、23 日	ビジョンセンター浜松町（東京都港区）	3
合計		3

■PWRC 指導員養成講習会（以下含め計 12 名）

日程	会場	合格者
未実施		
合計		

2. 認定審判員資格認定及び審判員研修会の開催

ライフセービング競技会等で審判を行うための講習会を開催し、C 級審判員の資格を認定する。さらに審判員に対する研修会を実施する。

審判員の認定については、認定審判員規程に従いこれを認定する。その他、上級審判として S、A、B 級審判員を定めている。

■ C級認定審判員養成講習会

日程	会場	合格者
4月27日	オンライン	4
4月28日	オンライン	8
5月5日	オンライン	2
6月15日	オンライン	7
6月16日	オンライン	6
6月22日	ももちパレス	17
7月6日	オンライン	19
7月7日	オンライン	9
8月3日	オンライン	10
8月4日	オンライン	13
9月21日	砂風呂の宿 友善	13
11月16日	オンライン	18
11月17日	オンライン	11
12月21日	オンライン	17
12月22日	オンライン	27
12月2日	KAKERU UMI CLUB HOUSE	3
1月11日	オンライン	11
1月12日	オンライン	5
1月18日	KAKERU UMI CLUB HOUSE	1
2月1日	オンライン	2
2月2日	オンライン	14
2月2日	東海大学静岡キャンパス	12
	合計	229

■ 審判員研修会

日程	会場	参加数
12月11日	オンライン	55
12月13日	オンライン	30
	合計	85

* * * * *

指導員資格：「更新」認定基準

[認定基準]

- ① 公益財団法人日本ライフセービング協会認定の指導員資格を有すること。
- ② 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本

ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

その他の資格及び審判員資格：「更新」認定基準

[認定基準]

- ① 公益財団法人日本ライフセービング協会認定の資格を有すること。
- ② 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

* * * * *

【C. 収益事業】

< 1 > STCW 条約に基づく基本訓練講習事業

(事業実施の背景)

STCW 条約第 6 章第 1 規則を担保するための船員労働安全衛生規則第 11 条第 1 項に基づく教育及び訓練の実施について、令和 2 年 4 月に対象が拡大され内航船についても対象となった。同訓練を実施する機関は現行 6 機関のみであり、受講対象範囲が拡大されたことから、受講希望者が増加し、訓練の滞りが懸念される。

本協会は、水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識を有しており、同訓練の実地訓練機関として十分に機能を果たし基本訓練（講習会）を実施することが可能であり、本協会が同事業に参画することで実地訓練機関の拡充を図ることが出来る。また、本協会としても、水辺の事故防止を理念に掲げる中、水辺の領域を海洋にまで広げ事業を行えることができる。

(事業の目的)

STCW 条約（第 6 章第 1 規則等）において規定された基本訓練について、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能・知識を活かし、実地訓練機関として基本訓練（講習会）を実施し、対象となる船員に対し係る知識と技能を教授し、もって回避可能な人命被害の減少を図る。

(事業の内容)

STCW 条約に基づく基本訓練に係る講習会の開催

STCW 条約（第 6 章第 1 規則等）において規定された基本訓練の対象となる船員に対し、個々の生存技術に係る訓練における講習会を開催し、修了者に受講証明書を交付する。講習会の管理は本協会内【JLA アカデミー本部】が実施することとし、係る船員労働安全衛生規則上の事務については、国土交通省海事局船員政策課へ必要な届出・報告等を行う。

(基本訓練に関する内容)

講師は、本協会の役職員等で、講師の知識及び能力の確保・維持のための研修を受講した者が担うこととし、内容は国土交通省の定める基準に基づいて行うこととする。

■基本訓練講習会

日程	会場	参加数
12月22日	甲賀 B&G 海洋センター	9
2月9日	甲賀 B&G 海洋センター	11
3月16日	甲賀 B&G 海洋センター	4
	合計	24

(以上)